

「日々の理科」(第 4035 号) 2025, -8, 24

「北海道一周鉄道旅行 (36)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この日は早朝に釧路を発ち、浦幌、帯広、南千歳、室蘭、長万部などを経由し、結構な時間をかけて函館駅に着きました。疲れているはずで、これでホテルに入って休む・・・というのが普通の旅行者でしょう。しかし、そうはいきませんでした。



函館駅にこんな赤い車両が停まっていたからです。これに乗ってみたいになりました。咄嗟に思いついたのが、これで「新函館北斗」まで行って、新幹線を1駅だけ乗ります。一駅目は「木古内 (きこない)」です。木古内は「道南いさりび鉄道」の始発駅です。それに乗って夕暮れの函館湾を見ながら、再び函館に戻ってくる・・・という計画です。

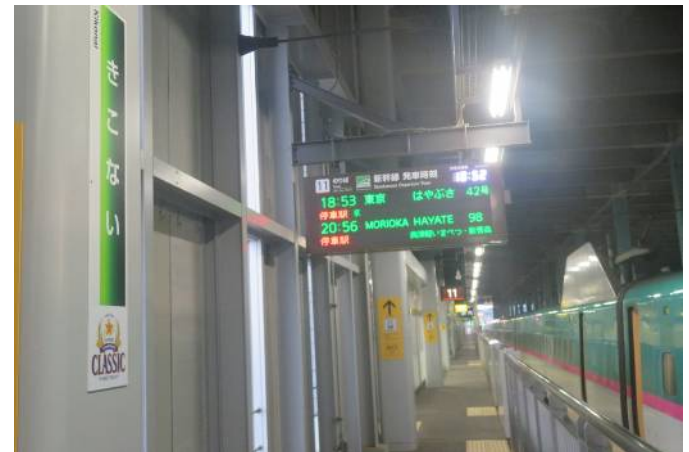


あまり迷わずに「赤い列車」に乗ってしまいました。荷物が小さなリュック一つだけ・・・というのもフットワークを軽くしています。函館から一つ目の駅が「五稜郭」です。ここで JR 線と道南いさりび鉄道線が分岐します。五稜郭駅は、有名な五稜郭の最寄り駅

ですが、実際に歩いていくにはちょっと遠いです。



新函館北斗駅からは、北海道新幹線を1駅だけ乗ります。贅沢な乗り方ですが、私の所持していた切符では、こういうことが何度でもできるのです。乗ったのは「はやぶさ東京行」でした。要は、このままこの日のうちに東京に帰ることも可能だったわけです。



「木古内駅」に着きました。この駅は北海道新幹線の北海道側最後の駅で、次の駅は本州側の「奥津軽いまべつ駅」です。私は新幹線からこの駅に初めて降りましたが、降車客は私だけでした。



木古内駅は、かつて国鉄の木古内線と松前線の分岐駅で、賑わっていました。側線の多さが往時の列車の

多さを物語っています。



構内には、今は廃止になった「松前行」「江差行」などのサボ（行先板）が展示されていました。この中で「函館・木古内」だけが、現在の道南いさりび鉄道に受け継がれています。



函館行の列車は、1両だけ、駅の隅のホームに申し訳なさそうに停まっていた。私の切符では途中駅からは無料で乗れるのですが、この第三セクターの鉄道を応援したいと思い、函館までの乗車券を購入して乗りました。



誰か一人ぐらい乗客がいるかなーと思いましたが、こんな時刻に木古内から乗る人はいません。残念なが

ら、乗ったのは私一人でした。



車内は昔の急行列車のような雰囲気です。ただ右側（海側）が2人掛け、左側（山側）が1人掛けという、ちょっと不思議な座席配置です。たぶん平日の朝など、高校生で混み合うので、立席客にも配慮しているのでしょう。



海側の座席の窓枠には、こんな親切な表示があります。実際にはあまり天気がよくない日でも、夜間でも函館山は結構よく見えます。



なつかしい「扇風機」のスイッチもあります。どっちがONなのか、よくわからないのは、昔と同じです。子どもの頃よく乗った「八高線」にもありました。